

短 報

戦前に南宇和郡御荘町大久保川で捕獲されたニホンカワウソ (*Lutra lutra nippon*)

稲葉 正和 *

The Japanese Otter (*Lutra lutra nippon*) caught in Okubo River, Misho town, Minamiuwa-gun before World War II .
INABA Masakazu

Abstract : The Japanese otter (*Lutra lutra nippon*) was caught in Okubo River, Misho town, Minamiuwa-gun before World War II . This specimen is valuable as the oldest capturing record in Ehime prefecture. Mummy-like meat pieces adhere to the specimen, which is useful as DNA extraction sample. By analyzing the sequence of DNA amplified from the specimen, detailed phylogenetic relationships of the Japanese Otter (*Lutra lutra nippon*) will be elucidated.

キーワード : ニホンカワウソ, 愛媛県で最も古い捕獲記録, DNA の抽出試料, ニホンカワウソの系統関係

Key words : The Japanese Otter (*Lutra lutra nippon*) , The oldest capturing record in Ehime prefecture, DNA extraction sample, Phylogenetic relationships of the Japanese Otter (*Lutra lutra nippon*)

ニホンカワウソ (*L. lutra nippon*) は、国の特別天然記念物に指定されていたが、2012年8月発表の第4次レッドリストにおいて、30年以上生息を確認できる有力な証拠が見つからないことを理由に絶滅種として判断された。しかし、愛媛県では、国がニホンカワウソを絶滅種に指定した後も、県内においてたびたび目撃情報が得られることから、愛媛県レッドデータブック2014において、絶滅危惧1A類 (CR) とし、広く情報提供を呼びかけている (愛媛県, 2014)。当館には旧愛媛県立博物館から移管されたニホンカワウソの剥製、全身骨格、頭骨、ミイラ化した死体、毛皮、食痕、糞が保管されているが、いずれも昭和29年以降の資料であり、昭和29年2月に喜多郡大川村 (現大洲市) で捕獲された記録以外は、すべて海岸部での記録である (千葉, 2001)。今回、戦前に南宇和郡御荘町 (現愛南町) の大久保川で捕獲されたニホンカワウソの襟巻が寄贈されたので、ここに報告する。

本標本 (写真1) は、昭和15年以前に愛南町を流れる僧津川の支流大久保川にある長走りの滝にて捕獲された個体である。地元の郷土史家藤田儲三氏によると、この滝には多くのニホンカワウソが生息していたとのことである (私信)。頭部にはマフラークリップがつけられているため、正確な体長、頭胴長の計測は困難であるが、参考値としてあげると、頭胴長70cm、尾長39cmである。

ニホンカワウソは、ユーラシアカワウソ (*Lutra lutra*)

に比べて頭胴長に対する尾長の比率が大きく、その比率は60%~70%に達する (Imaizumi and Yoshiyuki, 1989)。今回寄贈されたニホンカワウソの頭胴長に対する尾長の比率は、55.7%であり、ニホンカワウソのものとしては小さい。ニホンカワウソとユーラシアカワウソの相違点としては、ニホンカワウソの鼻鏡の輪郭がW字型であること (Imaizumi and Yoshiyuki, 1989) ニホンカワウソの頭骨の頬骨弓最大幅はユーラシアカワウソと比較するとより大きいこと (Endo. et al., 2000) などが報告されているが、本標本では鼻鏡の形状や頭骨は確認できないため、形態学的な同定は困難である。

本標本 (写真2, 3) は、前足、後足ともにミイラ状になった筋肉と爪が残存している。Suzuki et al. (1996) は、本館所蔵のニホンカワウソのミイラ (写真4) よりDNAを抽出し、中国やラトビアのユーラシアカワウソとニホンカワウソのミトコンドリアのチトクロームb遺伝子を比較したところ、224塩基中7~9塩基の違いが存在しており、遺伝的差異が大きいことを指摘している。また、Waku. et al. (2016) は、神奈川県産と高知県産のニホンカワウソの毛皮標本や剥製からミトコンドリアDNAを抽出し解析した。その結果、神奈川県産のニホンカワウソのDNAは、ユーラシアカワウソとの遺伝的差異は小さく、同じ種の範囲に含まれると考えられた。しかし、高知県産のニホンカワウソは、ユーラシアカワウソとの遺伝的差異が大きく、約127万年前に大陸から日本に渡っ

* 愛媛県総合科学博物館 学芸課 自然研究グループ (〒792-0060 愛媛県新居浜市大生院 2133 番地の 2)
Curatorial Division, Ehime Prefectural Science Museum (2133-2 Ojoin, Niihama, Ehime 792-0060 Japan <http://www.i-kahaku.jp>)

てきた古い系統であり、ユーラシアカワウソとは異なる日本固有の種または日本固有の亜種である可能性が示唆された。

これらの結果から、日本国内には、異なる2つの系統のカワウソが生息していた可能性が示唆されており、その分布状況を明らかにするためには、より多くの標本からDNAを抽出し、分析する必要がある。本標本からもDNAを抽出して分析することで、ニホンカワウソの系統関係を解き明かす一助になればと考えている。

末筆ながら、本標本を寄贈していただいた南予歴史民俗文庫 藤田儲三氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

愛媛県 (2014) : 愛媛県レッドデータブック 2014 RED DATA BOOK EHIME - 愛媛県の絶滅のおそれのある野生動物 -, 愛媛県, p58

千葉 昇 (2001) : 愛媛県立博物館所蔵ニホンカワウソ標本目録, 愛媛県立博物館研究報告, 第15号, p1-p12

Yoshinori Imaizumi and Mizuko Yoshiyuki (1989): Taxonomic Status of the Japanese Otter (*Carnivora, Mustelidae*), with a Description of a New Species. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A, 15 (3) , p177-188

Hideki Endo, Xiaodi Ye and Hiroyuki Kogiku (2000): Osteometrical Study of the Japanese Otter (*Lutra nippon*) from Ehime and Kochi Prefectures. Memoirs of the National Science Museum, 33, p195-201

Tomohiko Suzuki, Hajime Yuasa and Yoshihiko Machida (1996): Phylogenetic Position of the Japanese River Otter *Lutra nippon* Inferred from the Nucleotide Sequence of 224bp of the Mitochondrial Cytochrome b Gene. ZOOLOGICAL SCIENCE, 13, p621-626

Daisuke Waku, Takahiro Segawa, Takahiro Yonezawa, Ayumi Akiyoshi, Taichiro Ishige, Miya Ueda, Hiroshi Ogawa, Hiroshi Sasaki, motokazu Ando, Naoki Kohno, Tkeshi Sasaki (2016): Evaluating the Phylogenetic Status of the Extinct Japanese Otter on the Basis of Mitochondrial Genome Analysis. PLOS ONE, 11 (3): e0149341



写真1 ニホンカワウソの襟巻



写真2 ニホンカワウソの前足



写真3 ニホンカワウソの後足



写真4 ニホンカワウソのミイラ (EMZ-030 19621101, 南宇和郡西海町樽見鼻)